

<特集：レジャー・レクリエーション研究における基本書>

アンケート調査の概要

田中 伸彦*

Results of Questionnaire on "Basic Books for Leisure and Recreation Studies"

Nobuhiko TANAKA

I はじめに

「レジャー・レクリエーション研究の全体像を少しでも理解するためにはどのような文献を読み進めるべきなのか。」「レジャー・レクリエーション研究を行うにあたり必読とされる基本書にはどのようなものがあるのか。」

この分野の研究に携わる者であれば、上記のような考えを抱いたことがあるのではなかろうか。

ある1つの学問体系には、古来から多くの研究者に読み継がれ、思想的バックボーンとなっている「グレート・ブックス」と呼ぶにふさわしい著作や、研究を促進させるために欠かせない手法や方法論などが書かれている「基本書」と呼べる著作が必ず存在するはずである。

レジャー・レクリエーション研究は、哲学から、社会科学、人文科学、自然科学に至るまで実に幅広い学問分野にまたがる学際的研究分野である。また、その中の各専門分野で日々研究が発展を遂げている。そのため、レジャー・レクリエーションの研究分野では、1研究者が個人的に研究の全体像を把握しながら、自己のテーマを進めるために、多大な労力を注ぎ込む必要がある。そうせずに各自が自己のテーマを押し進めると、学問体系全体として健全で調和のとれた発展をする保証がなくなる。

学問体系を包括的に捉えるためには、上述のような

「グレート・ブックス」にあたる著作や「基本書」を参照することが非常に重要となることは間違いない。だが、特に近年のように、1つの個別専門分野に限っても莫大な情報が溢れている中では、自分と異なる分野の「グレート・ブックス」や「基本書」を効率的に探し当てることもまた容易ではなくなっている。

今回行ったアンケートは、そのような状況を緩和する一助として行われたものである。具体的には、レジャー・レクリエーション研究の各専門分野に造詣の深い当学会の理事を対象に、各々の専門分野の「グレート・ブックス」や「基本書」、更に各分野の研究をレビューした文献リストを、記述式アンケートにより紹介してもらった。よって、とりまとめた結果には、レジャー・レクリエーション研究の広範な分野に渡る「グレート・ブックス」や「基本書」が推薦されている。

このアンケート結果の報告をきっかけに、学会内の異なる分野の研究者間の相互理解や研究交流がスムーズに行われ、より深く幅広い議論が起ることを期待している。

II アンケートの概要

1) 調査方法

アンケートは、当学会の理事(30名)を対象に、郵送法により行った。具体的には、1996年12月9日付けで、郵便により各理事宛に記述式の質問用紙を送付し、

* 農林水産省森林総合研究所

Forestry and Forest Products Research Institute, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

返送期限を翌月1997年1月15日として回答して頂いた。回答に要する期間が1ヶ月余りと比較的短期間の上、期間内に正月を狭むなど必ずしも十分な日程がとれなかったが、最終的には送付者の78%にあたる25名からの返答を頂いた。

2) 質問内容

質問内容は以下の通り3つに大別される。

1つ目は、回答者の専門分野を尋ねる質問である。今回のアンケートでは、8領域の専門分野（1. 原論、2. 活動・行動研究、3. 環境計画論、4. 政策研究、5. プログラム開発、6. 福祉、7. 産業、8. サービス・運営管理）に「9. その他」を加えた計9領域の中から、複数回答で自身が当てはまる分野に○をつけてもらう方法で行った。8領域の専門分野は、既存文献¹⁾や、当学会の入会申込書などを参考に、編集委員会において便宜的に区分したものである。

2つ目は、「基本書」に関する質問である。ここでは自身の専門分野で「グレート・ブックス」的な著作や「基本書」として重要で、他の分野の研究者にも必読であると考えられる図書を各自5冊推薦してもらい、更にその図書に関するコメントを頂いた。

3つ目は、「文献リスト」に関わる質問である。この質問項目では、各専門分野の研究内容を取りまとめた文献リストの有無を各回答者に確認した。

III アンケートの結果

1) 回答者の専門分野に関する質問の結果

回答者の専門分野を明らかにするために行った質問の結果概要は以下の通りである。

図-1にまとめたとおり、回答者の専門分野の分布状況は、活動・行動研究（12名）を専門とする回答が最も多く、次いでプログラム開発（9名）、原論（7名）、政策研究（6名）の順であった。なお、「9. その他」の回答が1件あったが、その内容は「野外レクリエーション論」であった。

2) 「基本書」に関わる質問の結果概要

「基本書」についての質問の結果では、資料1の通り、合計で99冊の著作が推薦された。個人ごとの著作の推薦数は編集側で依頼した5冊よりも多い場合と少ない場合の両方が見られたが、集計にあたっては回答された全ての著作を掲載した。

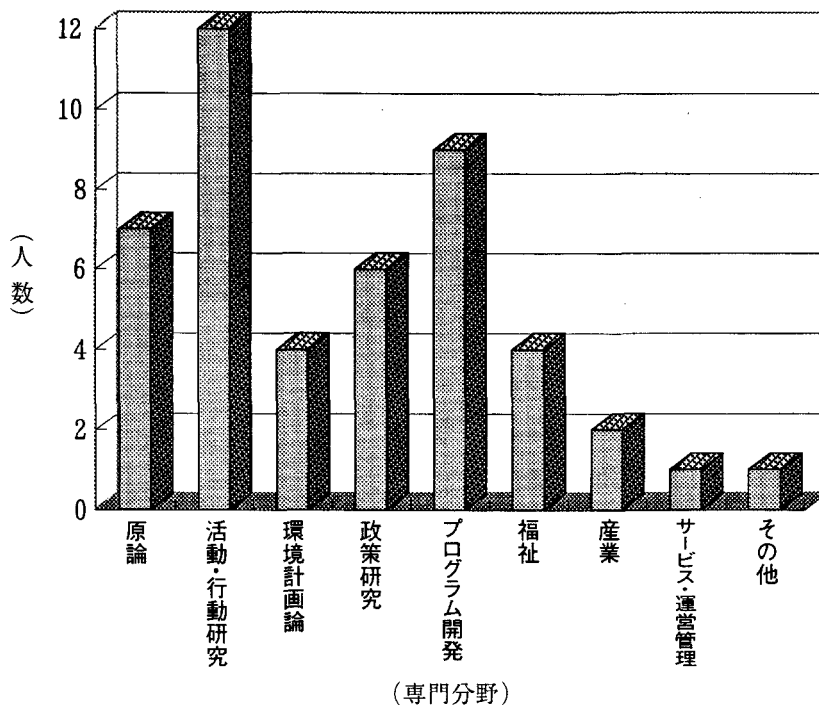


図-1 回答者の専門分野一覧（複数回答）

資料1をまとめるにあたっては、編集側で著作の確認作業を行った。まず、「書名・著者名・出版社名・発行年」については、筑波大学の文献検索システムtulipJを利用して検索し、またなるべく原典を確認するようにつとめた。しかしながら、新刊書を中心に確認できない著作が複数見られたので、その場合にはアンケートの回答をそのまま掲載した。また、基本書に対する「コメント」については編集側で文体の統一を行い、複数の推薦があった場合、1つのコメントにと

りまとめた。そして、基本書が「推薦された分野」としては、その基本書を推薦した回答者が○をつけた専門分野を全て掲載した。

先に述べた通り、今回の調査では合計99冊の著作が推薦されたが、そのうち複数の回答者から重複推薦されたものが16冊見られた。これらの重複図書は、「グレート・ブックス」的価値を持つ高い著作、あるいは「基本書」の中でも更に重要度の高い著作と考えられるため、表-1として書名リストを別掲した。

表-1 重複して推薦された基本書一覧

重複数	資料1における番号	基本書名
5	3	ホモ・ルーデンス
3	16	遊びと人間
	26	レクリエーション体系Ⅰ～Ⅲ
	54	レクリエーション学の方法
2	4	Administration of the modern camp
	8	Sports,culture and society (スポーツと文化・社会)
	10	設計・施工 造園技術 (設計・施工 造園技術大成)
	22	現代レクリエーション講座
	25	景観の構造
	31	造園ハンドブック
	34	人生をいかに生きるか
	38	日本の自然公園
	40	遊びの構造論
	55	余暇と祝祭
	65	アメリカ人のアウトドアレクリエーション
97	ランドスケープ体系 全7巻	

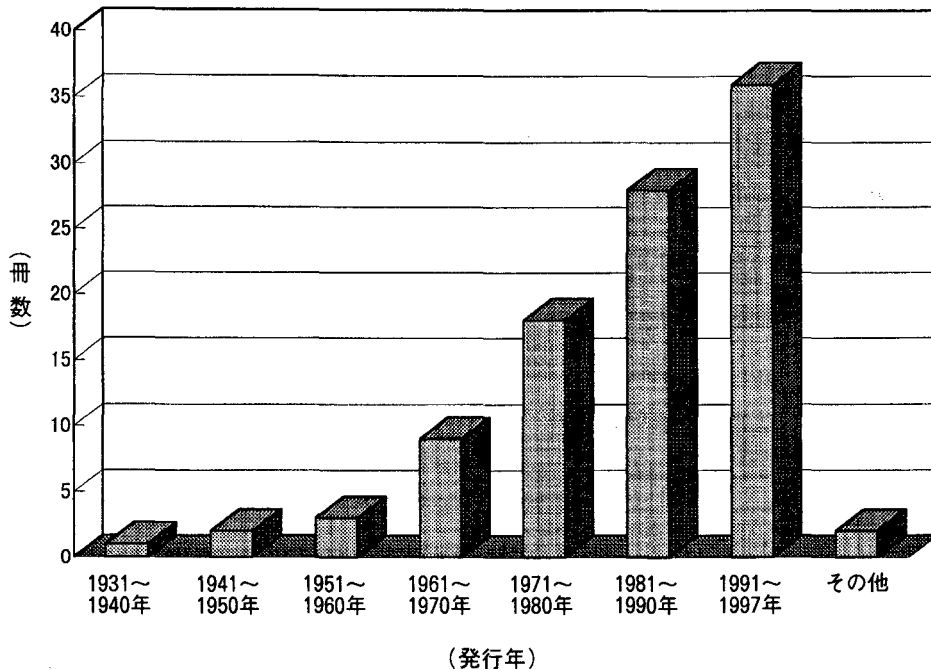


図-2 推薦された基本書の発行年

また、推薦された基本書の発行年に注目すると、1938年から1997年まで約半世紀に渡っていた。全般的な傾向として、発行年の古いものは、多くの専門分野から推薦された「グレート・ブックス」的存在の著作が多く、新しいものは個別の専門分野を理解するために重要な「基本書」とあるという傾向がみられた。この点について、資料1は発行年順に著作が並べられているので各自確認された。

更に、基本書の発行年を10年毎に区切り、その数をグラフ化すると、過去から現在に向かって基本書の数が指数関数的に増加している傾向が見られた(図-2)。その理由として、発行年が古い著作は、歴史の中でその内容が厳しく吟味され、洗練された著作が少数残る傾向があることから、数が少ないという理由や、近年は研究分野が多様化し、個別分野の基本書が数多く出版され、結果として発行年の新しい著作の推薦数が多くなっている理由等が考えられよう。

3) 「レビュー文献」に関わる質問の結果

各専門分野をレビューした文献リストの有無に関する質問を行ったところ、資料2に掲載した通り、14種類の文献リストが回答された。なお、資料2を集計するにあたっては、回答された著作の中から文献リストの形態をとっているもののみピックアップし、総説的

な内容で書かれた著作については割愛した。今回行ったアンケートでは、そのような総説的な著作が多く推薦されたが、「基本書」との線引きが困難であったため割愛することとした。

IV まとめ及び謝辞

以上、「レジャーレクリエーション研究における基本書」アンケート調査結果の概要報告を行った。

この報告で最も価値のある内容は、言うまでもないが資料1及び資料2に挙げられた「基本書」及び「レビュー文献」の数々である。これらのリストが、各自の研究を健全に進捗するための一助となれば幸いである。

また、これらのリストをとりまとめるにあたっては、当学会の理事の方々に多大なる協力を頂いた。御多用のところ快くアンケートに回答して下さいました学会理事の方々に改めて深甚なる謝意を表すものである。

参考文献

1) 日本レクリエーション学会編：レクリエーション学の方法、ぎょうせい、363pp、1987

(資料1)

アンケートで推薦された基本書一覧（発行年順）

1. 日本人の生活時間、NHK、日本放送出版協会、（5年毎発行）

コメント：5年毎の日本人の生活時間を量的に把握するためには、どうしても必要となる基本書である。

（推薦された分野：活動・領域研究）

2. レジャー白書、余暇開発センター編、余暇開発センター、（毎年発行）

コメント：日本人のレジャー活動の頻度を時系列的に把握するために必要となる基本書である。

（推薦された分野：活動・領域研究）

3. Homo Ludens, Johan Huizinga, Trad France, 1938

（ホモ・ルーデンス、ヨハン・ホイジンガ（高橋英夫訳）、中央公論社、1962）

（ホモ・ルーデンス、ヨハン・ホイジンガ（里見元一郎訳）、河出書房新社、1990）

コメント：初め文化は遊ばれたということや、遊びがいかなる物質的批判も伴われていない活動であることを指摘している。また、本書は偶然遊びまで範疇に入れて遊ぶことを文化として捉えている。人間は遊技的動物という著者の基本的な考え方は、文化の基礎としてのプレーやレジャーを考える上で重要であり、プレイ論から近代化社会の問題点を探るための好著と考えられる。

（推薦された分野：原論／活動・領域研究／政策研究／プログラム開発／福祉／産業）

4. Administration of the modern camp, H. S. Dimock編, Association Press, 1948

コメント：組織キャンプに関する指導・管理・運営について、近代的な思考をもって指導者の指針を示している。組織キャンプ経営・指導に関して基本的な事項を学ぶことができる。

（推薦された分野：原論／活動・領域研究／プログラム開発）

5. レクリエーション：理論と実際、白山源三郎、同文館、1949

コメント：第1回全国レクリエーション週間を前に発刊された。著者は日本レクリエーション協会の初代専務理事を務め、また世界レクリエーション会議へ参加して日本への働きかけを考え、普及をはかる意図で書かれたものである。

（推薦された分野：原論／プログラム開発）

6. 人間 この未知なるもの、アレキシス・カレル（桜川如一訳）、角川書店、1951

（人間 この未知なるもの、アレキシス・カレル、三笠書房、1980）

コメント：ノーベル生理学賞を受けた生理学の第一人者が、人間のメカニズムは野生の動物のままであり、文明の発達著しい現代社会の中で不適応現象を起こすのは必然であるとして「無策」を警告している。

（推薦された分野：原論／政策研究／プログラム開発）

7. Motivation and personality, Abraham H. Maslow, Harper & Row, 1954

（人間性の心理学：モチベーションとパーソナリティ 改訂新版、A. H. マスロー著（小口忠彦訳）、産業能

率短期大学出版部、1987)

コメント：著者はアメリカ心理学会の会長もつとめ、人間の基本的欲求の階段化を提唱した人物である。本書はレクリエーション活動の行動論的分析に役立つ。

(推薦された分野：原論／プログラム開発)

8. Sports, culture and society. Gerald S. Kenyon and John W. Loy Jr., Macmillan Publishing Co. Inc., 1954

(スポーツと文化・社会、ジョンW. ロイ Jr. 編 (桑野豊編訳)、ベースボール・マガジン社、1988)

コメント：世界のスポーツ社会学者たちの研究発表論文で、スポーツ社会学の概要を把握するのに最適である。また、現在WLRAのGeneral Secretaryをつとめる Kenyonは、スポーツの文化および社会を総合的にとらえ、それぞれの概念化を試みている。

(推薦された分野：原論／活動・領域研究／プログラム開発)

9. 政治学、アリストテレス (山本光男訳)、岩波書店、1961

コメント：余暇政策がなぜ国家政策として重要であるかを根拠づけてくれる古典である。

(推薦された分野：原論／政策研究／プログラム開発／産業)

10. 設計・施工 造園技術、関口太郎、養賢堂、1961

(設計・施工 造園技術大成、関口太郎、養賢堂、1978)

コメント：造園に係る多方面の分野で実務・研究に従事する京都大学造園学研究室OBの共同執筆によるものである。造園学の広い分野に対し、それぞれ章をたてて研究成果をふまえて計画されている。学習参考書として活用すべき図書の1冊である。

(追記：「設計・施工 造園技術」は、1968年・1973年に改訂され、1978年に「設計・施工 造園技術大成」に引き継がれた。)

(推薦された分野：環境計画論)

11. レクリエーションハンドブック、三隅達郎・江橋慎四郎・池田勝編、国土社、1961

コメント：本書はレクリエーションの入門書で、活動の解説や指導上の一般原則などを取り上げている。

(推薦された分野：プログラム開発／福祉)

12. 講座 現代レクリエーション1～4、加藤橋夫・西田泰介・三隅達郎・江橋慎四郎監修、ベースボール・マガジン社、1962

コメント：本書に書かれている戦後のレクリエーションに対する考え方・行動が参考になる。

(推薦された分野：原論／活動・領域研究／政策研究／プログラム開発／福祉)

13. レクリエーション総説、G. D. バトラー (三隅達郎訳)、ベースボール・マガジン社、1962

コメント：バトラーの“Introduction to Community Recreation”の翻訳であり、特にアメリカのレクリエーションについての基本となっている。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発)

14. 体系農業百科事典Ⅲ 造園、農政調査委員会・農業百科事典編纂室編、財農政調査委員会、1967

コメント：造園史、造園計画、造園材料、造園工学、造園施設、造園管理など広範囲にわたってその分野のきちんとした研究成果をまとめた図書である。

(推薦された分野：環境計画論)

15. 日本の庭園、田中正大、鹿島出版会、1967

コメント：「自然に従う」と「自然を造形する」の2つのキーワードを元に、日本人にとっての重要なレクリエーション空間であった日本の庭園のありようを、歴史的に究明した名著である。

(推薦された分野：環境計画論)

16. 遊びと人間、R. カイヨワ (清水幾太郎・霧生和夫訳)、岩波書店、1970

(遊びと人間、ロジェ・カイヨワ (多田道太郎・塚崎幹夫訳)、講談社、1971)

コメント：子供から大人を通じて、すべての遊びを独自の原理によって分類し、プレイの原理から文化・社会の発展や多様性を考察している。

(推薦された分野：原論／活動・領域研究／政策研究／プログラム開発／福祉)

17. 未来の衝撃、アルビン・トフラー (徳山二郎訳)、実業之日本社、1970

コメント：激変する社会の具体例を示してどのように対応するかを読者に問いかけている。アメリカのUCLAでレジャー・レクリエーション専攻学生の必読書になっていた。

(推薦された分野：原論／政策研究／プログラム開発)

18. ニコマコス倫理学 (上・下)、アリストテレス (高田三郎訳)、岩波書店、1971

コメント：余暇政策がなぜ国家政策として重要であるかを根拠づけてくれる古典である。

(推薦された分野：原論／政策研究／プログラム開発／産業)

19. 講座 健康の生理学講座7 レクリエーション、渡辺俊男、医歯薬出版、1971

コメント：レクリエーションを健康と生理学的立場から考察した著書である。

(推薦された分野：原論)

20. 余暇文明へ向って、デュマズディエ (中島巖訳)、東京創元社、1972

コメント：労働中心から余暇社会へ向かう現代のあり方を究明したものである。

(推薦された分野：原論)

21. Concepts of leisure, James F. Murphy 編, Prentice-Hall, 1974

コメント：レジャー概念について、比較を行いながら哲学的考察がされている点で基本書に値する。

(推薦された分野：原論／政策研究／プログラム開発／産業)

22. 現代レクリエーション講座、江橋慎一郎・加藤橋夫・西田泰介・三隅達郎編、ベースボール・マガジン社、1974

コメント：本書はレクリエーションの問題を正しく理解し、国民生活に密着したレクリエーション活動の推進に寄与することを目的としている。現代におけるレクリエーションを講座ものとして数冊にまとめた入門書である。

(推薦された分野：原論／プログラム開発／福祉)

23. 日本の公園、田中正大、鹿島出版会、1974

コメント：「みんながいつでも利用できる、造園化されたオープンスペース」としての都市公園が、江戸時代から明治時代にかけてどのように整えられてきたか、またヨーロッパとの公園との違いはどこにあるのか、を歴史的に究明した名著である。

(推薦された分野：環境計画論)

24. Recreation leadership and supervision : Guideline for professional development, R. G. Kraus and B. J. Bates, W. B. Saunders, 1975

コメント：レジャー・レクリエーション教育の専門コースのテキストでもあり、表題の通り具体的なガイドラインが示されている。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発)

25. 景観の構造：ランドスケープとしての日本空間、樋口忠彦、技報堂、1975

コメント：レジャー・レクリエーション環境計画の重要な要素である視覚現象としての「景観」について分析的に書かれている基本書である。

(推薦された分野：環境計画論)

26. レクリエーション体系Ⅰ～Ⅲ、日本レクリエーション協会編、不味堂出版、1975～

コメント：レクリエーションの現代(Ⅰ)、展開(Ⅱ)、科学(Ⅲ)の三部作であり、その当時のレクリエーションにかかわる指針を示している。レジャー・レクリエーションを体系的な学問領域として体系づけた学問書である。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発／福祉)

27. 人間はなぜ遊ぶか、M. J. エリス (森嶽訳)、黎明書房、1976

コメント：遊びとは何か、人間はなぜ遊ぶのかという問題を独創的に解決してくれた書である。

(推薦された分野：活動・行動研究／プログラム開発)

28. 近代スポーツ批判、中村敏雄、三省堂、1977

コメント：歴史社会的に形成されてきた近代スポーツがもつ文化的・思想的特質を実態的事例に基づいて分かりやすく論じた好書である。

(推薦された分野：活動・領域研究)

29. シリーズ スポーツを考える (全5巻)、影山達・川口智久・中村敏雄・成田十次郎、大修館書店、1977

コメント：現代社会の特質とスポーツとの関係を多面的・縦走的に検討し、国民スポーツの確立・発展と期して実践への展望と提言を試みている。

(推薦された分野：活動・領域研究)

30. 日本レクリエーション協会30年史、日本レクリエーション協会、遊戯社、1977

コメント：戦後の日本レクリエーション協会の活動史をまとめたものである。

(推薦された分野：原論／活動・領域研究／プログラム開発／福祉)

31. 造園ハンドブック、日本造園学会編、技報堂出版、1978

コメント：(社)日本造園学会創立50周年記念事業として、造園に係る多方面の分野で実務・研究に従事する学会会員の共同執筆により刊行された。造園学のすべての分野が網羅されているので便利な図書である。

(推薦された分野：環境計画論)

32. 野外レクリエーション白書：，79レクリエーション白書、野外レクリエーション研究会、日本レクリエーション協会、1978

コメント：野外レクリエーションの意味内容について共同討議を加えた上で、活動、団体、施設、サービスの現状を分析し、特に環境へのインパクトを重視してその対策について提案を行っている。

(推薦された分野：環境計画論)

33. 労働観試論、山川肇、農山漁村文化協会、1978

コメント：永年労働者に関わった著者が、古今東西の労働観を論じて「開かれた自由な労働感覚」の復権を主張する好著である。

(推薦された分野：環境計画論)

34. 人生をいかに生きるか（上・下）、林語堂（坂本勝訳）、講談社、1979

コメント：著者は中国の生み出した世界的ジャーナリストであり、世事生活の万端を語り尽くし、人生と生活の妙味を浮き彫りにしている。中国人がいかに人生を楽しむ達人であることを示す好著である。

(推薦された分野：原論／環境計画論／政策研究／産業)

35. The social psychology of leisure and recreation, S. E. Iso-Ahola, W. C. Brown, 1980

コメント：余暇活動を社会心理学的にどう扱うかに言及した古典的基本図書の1つである。

(推薦された分野：活動・領域研究)

36. スポーツと現代アメリカ、アレン・グートマン（清水哲夫訳）、TBSブリタニカ、1981

コメント：現代スポーツの特性を理論的かつ歴史的に解説した好著である。

(推薦された分野：活動・領域研究／サービス・運営管理)

37. 第三の波、アルピン・トフラー（徳山二郎監訳）、日本放送出版協会、1981

コメント：解決困難な問題の続出にどう対応するか示唆している。このような状況の中、レジャー・レクリエーション研究のあり方を考えるきっかけを与えてくれる。

(推薦された分野：原論／環境計画論／政策研究／プログラム開発)

38. 日本の自然公園：自然保護と風景保護、田中正大、相模書房、1981

コメント：わが国の自然公園（国立公園）及びその制度の歴史がわかりやすく書かれている。「日本の庭園」「日本の公園」に続く、造園史研究者としての著者の3部作の1つである。日本独特の風土を背景として、風景保護、観光振興、アウトドア・レクリエーションなどの多面的な要請のもとに展開してきた日本の自然公園の姿を、歴史的に探求・解明した名著である。

(推薦された分野：環境計画論)

39. 風景学入門、中村良夫、中央公論社、1982

コメント：土木技術／景観工学研究者の立場から、生活の中の風景／名所の復権、再創造を提起する名著である。成熟期の日本の知的達成として稀にみる「思想書」の1つとされる。

(推薦された分野：環境計画論)

40. 遊びの構造論、園田碩哉、不昧堂出版、1983

コメント：永年(財)日本レクリエーション協会の機関誌「レクリエーション」の編集長を務めた著者が、「遊」の世界を構造的に理解するために、多くの人々との討論等を元に著した14編の論稿をまとめたものである。遊びと余暇をつなぎ、レジャーとレクリエーションをより合わせた理論書と言える。また、巻末に掲げられた文献リストは多岐にわたっていて「基本書／必読書」の類も多くあり大変参考になる。

(推薦された分野：活動・行動研究／環境計画論／プログラム開発)

41. 郷土設計論 緑からの発想、進士五十八、思考社、1983

コメント：著者年来の主張である「農」の文化論をベースに、現代都市の緑の状況を批判・告発するとともに、これを乗り越えるものとして「郷土設計論」からのまちづくりを提唱した力作である。

(推薦された分野：環境計画論)

42. Being adolescent : Conflict and growth in the teenage years, Mihaly Csikszentmihalyi and Reed Larson, Basic Books, 1984

コメント：EMS (Experience Sampling Method) を使ったの青少年の生活行動調査結果を背景に、新しい視点からの青少年を理解しようとする良書である。研究結果がどう実際場面に反映されるのかを理解するのに最適と言える。

(推薦された分野：活動・領域研究)

43. 絵になる都市づくり、尾島俊雄、日本放送出版協会、1984

コメント：建築・都市工学研究者の立場から、日本の都市のあり方について多面的な視点から論じている。現代の都市像を構想するにあたっての基本書と言える。

(推薦された分野：環境計画論)

44. こどものあそび環境、仙田満、筑摩書房、1984

コメント：建築家の著者が、綿密な調査と実践研究の下に、子どもたちにとって住みよい都市づくりに向けての提案を行っている。子供の遊び論としても名著と言える。

(推薦された分野：環境計画論)

45. スポーツ社会学講座①～③、菅原禮編著、不昧堂出版、1984

コメント：スポーツ社会学の基本的見方、考え方を示したもので基本書として重要である。

(推薦された分野：活動・行動研究)

46. 環境を創造する：造園学からの提言、日本造園学会編、日本放送出版協会、1985

コメント：「環境と創造」をテーマとして開かれた国際造園会議 I F L A 日本大会を機に刊行されたもの。造園学を専攻し実践する最先端21人の執筆者たちにより、環境資産・風土・風景の保全と創造・まち

づくりと自然など、幅広い分野での研究・実践の成果が示されており、1985年時点での造園分野における課題を知る上での絶好書である。

(推薦された分野：環境計画論)

47. セラピューティックレクリエーション：障害軽減・健康維持を願う人へのレクリエーション、鈴木秀雄、講談社、1985、及び同名書：鈴木秀雄、不昧堂出版、1995

コメント：レクリエーションの効果と医学的效果とを並列・共存させた形態での新しい領域を扱った本書は、セラピューティックレクリエーションの理念（概念）の理解から指導までを含めた一連のプロセスが詳しく述べられている。

(推薦された分野：プログラム開発／福祉)

48. 緑の環境デザイン：庭から国立公園まで、斎藤一雄・田端貞寿編著、日本放送出版協会、1985

コメント：造園学の立場から、住環境の保全と多様な緑のあり方を提起している。

(推薦された分野：環境計画論)

49. 遊びの考現学—根拠地としての遊びの精神—、門脇厚司、誠文堂、1987

コメント：日本人にとって「遊び」とはいったい何だったのか、また「遊び」とどうかかわって来たのか、文化的側面、社会学の立場から「遊び」をとらえ、余暇時代の「遊び」のあり方を考現している。

(推薦された分野：活動・領域研究)

50. 女性の生涯教育、瀬沼克彰、学文社、1987

コメント：本書は女性の学習行動に着目し、実態や活動特性、課題などを明らかにしている。

(推薦された分野：言論／活動・領域研究)

51. 体育原理講義、中村敏雄・高橋建夫編著、大修館書店、1987

コメント：スポーツ、レジャー、レクリエーション、プレイなどの類似する用語の定義を行い、その概念について論じている点で貴重な1冊である。

(推薦された分野：言論／活動・領域研究)

52. 非労働時間の生活史：英国風ライフスタイルの誕生、川北稔編、リポレポート、1987

コメント：イギリス人の「非労働時間」の過ごし方をいくつかの角度から追求した好書である。

(推薦された分野：活動・行動研究／プログラム開発)

53. 緑のまちづくり学、進士五十八、学芸出版社、1987

コメント：造園学の原論的観点から「緑のまちづくり・環境づくり・風景づくり」の意義と方法とその基本について具体的・客観的に述べられたもので、最近における「造園」の進化を理解するのに便利である。

(推薦された分野：環境計画論)

54. レクリエーション学の方法、日本レクリエーション学会編、ぎょうせい、1987

コメント：レクリエーション学を「歴史と言論」、「意識と行動」、「活動とプログラム」、「サービスと運営管理」、「資源と空間」、「政策と運動」の6分野で解説し、レクリエーション学の研究の動向・方法が体系

的に示されている。当学会が総力を挙げて執筆編集した力作であり、研究上バイブルに値する。

(推薦された分野：原論／活動・領域研究／環境計画論／プログラム開発／福祉)

55. 余暇と祝祭、ヨゼフ・ビーバー（稲垣良典訳）、講談社、1988

コメント：本書により古典的レジャー理論の系譜を学ぶことが出来る。余暇の本質を考える上では不可欠な1冊である。

(推薦された分野：原論／政策研究／プログラム開発／産業)

56. 遊びの現象学、西村清和、勁草書房、1989

コメント：著者は美学を専門的に学び、その中からいかに芸術と遊びとが1つのものとして考えられてきたかを論じている。

(推薦された分野：活動・領域研究／福祉)

57. 自然保護の法と戦略、山村恒年、有斐閣、1989

コメント：レジャー・レクリエーションの環境計画と密接な関係にある自然保護の法と戦略について細かく網羅されていて便利である。

(推薦された分野：環境計画論／政策研究)

58. NIRA研究叢書 No.890053 休暇の経済・社会的役割、総合研究開発機構編、総合研究開発機構（発売：全国官報販売組合）、1989

コメント：休暇の経済・社会的役割を国際比較という観点から解説している。

(推薦された分野：活動・領域研究／サービス・運営管理)

59. 「ゆとり」時代のライフスタイル：7タイプに見る生活意識と行動、鮑戸弘・松田義幸編著、日本経済新聞社、1989

コメント：マーケティングの必要な時代に、マーケティングの有効な戦略を模索するために7タイプから生活意識と行動をみた書である。

(推薦された分野：活動・行動研究／プログラム開発)

60. アメリカの環境保護運動、岡島成行、岩波書店、1990

コメント：一見ごく一般的な書物であるが、環境保護に関する真実が語られていて貴重である。

(推薦された分野：環境計画論／政策研究)

61. 地域スポーツの創造と展開：福岡市からの提言、厨義弘・大谷善博編著、大修館書店、1990

コメント：社会体育領域の諸問題について取り上げ、その基本的考え方について具体例を出しつつ明らかにしている点で評価される。

(推薦された分野：活動・行動研究)

62. まちづくり読本、延藤安弘、晶文社、1990

コメント：住まいづくり、まちづくり研究を専門とする立場から、市民参加による多くのまちづくりの実践事例を紹介した好著である。

(推薦された分野：環境計画論)

63. リゾート列島、佐藤誠、岩波書店、1990

コメント：本来の意味でのリゾートについて、そして現況のリゾートの問題点について書かれている。

(推薦された分野：環境計画論)

64. 遊びと非行の境界喪失、佐瀬一夫、歴史春秋社、1991

コメント：永年身体障害者の教育指導に関わった著者が、「人が人を殺して遊ぶ」現実に衝撃を受けて、遊びと非行のボーダレス化をいかに回復・修復したらよいかを探求し、「遊びの回復」を論じたものである。巻中の参考文献・資料には多くの基本書が示されている。

(推薦された分野：環境計画論)

65. アメリカ人のアウトドア・レクリエーション、大統領諮問委員会 (PCAO) 編、日本観光協会、1991

コメント：「ORRRC」から流れをくむアメリカ人の野外活動に関する大統領の諮問機関委員会 (PCAO) が1987年1月に答申した報告書を翻訳書したものである。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発／環境計画論／福祉)

66. The experience of psychopathology, de Varies編, Combridge University Press,1992

コメント：EMS (Experience Sampling Method) に関する解説書である。EMSの妥当性・信頼性や分析方法について詳しく解説している。

(推薦された分野：活動・領域研究)

67. アメニティ・デザイン：ほんとうの環境づくり、進士五十八、学芸出版社、1992

コメント：造園学専攻を志す学生を主な対象として、造園空間に関わる全般について多くの実践課題をふまえて明快に解説をした基本書である。

(推薦された分野：環境計画論)

68. アメリカの環境保護法、畠山武道、北海道大学図書刊行会、1992

コメント：日本の国立公園の参考となったアメリカの国立公園に関する基本的な紹介書として必読と言える。

(推薦された分野：環境計画論／政策研究)

69. 子どもと遊び：環境建築家の目、仙田満、岩波書店、1992

コメント：著者が朝日新聞に掲載した子どもの遊び場論をまとめたもので、いま子どもたちのために必要なこと、工夫すべきことを語っている。

(推薦された分野：環境計画論)

70. スポーツという文化、サントリー不易流行研究所編、TBSブリタニカ、1992

コメント：「スポーツが『文化』としてどの様に生活に密着しているのか」を諸外国・メディア・女性・芸術などの関連から論じている。

(推薦された分野：原論／活動・領域研究)

71. 絵図から読み解く人と景観の歴史、小椋純一、雄山閣出版、1992

コメント：時代の文化がつくりあげた過去の植生景観を、「洛中洛外図」はじめ多くの絵図資料から読み解いていくというユニークな「人と自然との関わり／環境生態論」研究を続けてきた著者の集大成である。

(推薦された分野：環境計画論)

72. 自由時間、内田弘、有斐閣、1993

コメント：歴史研究から現代研究に焦点を移動させ、時短と自由時間を巡る事態の推移を追いかけた書である。
(推薦された分野：活動・行動研究／プログラム開発)

73. スポーツの科学的原理、岸野雄三、大修館書店、1993

コメント：「スポーツは余暇の楽しみか苦斗の難行か」という問題提起から始る序論の通り、スポーツ現象やその科学を様々な角度から論じている。
(推薦された分野：原論／活動・領域研究)

74. 造園を読む：ランドスケープの四季、進士五十八・白幡洋三郎編、彰国社、1993

コメント：当時の日本造園学会の中堅研究者30余名による項目分担執筆によるもので、造園という専門分野の理解を深めるのに便利な読み物である。
(推薦された分野：環境計画論)

75. レジャー産業を考える、多摩大学総合研究所編、実教出版、1993

コメント：人間にとって余暇の本質的意味まで考究し、それをいかにビジネスに応用できるかを探り、提案している。
(推薦された分野：原論／政策研究／プログラム開発／産業)

76. 遊び論研究：遊びを基盤とする幼児教育方法理論形成のための基礎的研究、山田敏、風間書房、1994

コメント：本書は遊び研究の手がかりによく、基本書の1つに教えられる。
(推薦された分野：原論／活動・領域研究／政策研究／プログラム開発／福祉)

77. 競争社会をこえて：ノー・コンテストの時代、アルフィ・コーン（山本啓・真水康樹訳）、法政大学出版局、1994

コメント：勝利者が敗北者を生み出す現代のパワーゲームの非生産的な仕組みの矛盾と誤りを実証し、これを正すべく無競争社会を目指した諸制度のリストラと具体的な新しいプログラムの確立を提言している。1987年のアメリカ心理学会賞を受賞した。
(推薦された分野：環境計画論)

78. 近代日本公園史の研究、丸山宏、思文閣、1994

コメント：今後の環境計画研究に対して、歴史を見つめ深く追求するために必要な基本書である。
(推薦された分野：環境計画論／政策研究)

79. 生涯学習の活性化対策：余暇と生涯学習の推進、瀬沼克彰、学文社、1994

コメント：我が国の生涯学習の実態と今後の課題及び具体的なノウハウが記述されている。
(推薦された分野：原論／活動・領域研究)

80. レクリエーション・マネジメント、日本レクリエーション協会編、大修館書店、1994

コメント：レクリエーションを社会に根づかせるための組織づくりと、そのマネジメントについて総合的・科学的に検討している。同時に地域のレク関連の行政や施設に関わる専門家にとっても住民に歓迎される事業を進める上で有益な手引き書となるであろう。
(推薦された分野：活動・領域研究／福祉)

81. 遊びと生活の哲学、尾関周二、大月書店、1995

コメント：この本では遊びを労働やコミュニケーションとの関係で考察している。すなわち、人間活動論、あるいは生活活動論ともいうべきものの序説的意味合いを持たせながら、それぞれの領域で論じているところが興味深い。

(推薦された分野：活動・領域研究／福祉)

82. 高齢者の健康・体力科学、永田晟、不味堂出版、1995

コメント：高齢者の行動・活動を研究する上で高齢者の健康・体力を知ることが必須であり、そのための基本書と言える。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発)

83. 生涯スポーツのプログラム、日本レクリエーション協会編、遊戯社、1995

コメント：生涯スポーツの理念、プログラム開発、ニュースポーツの理念と動向、施設・用具の研究開発、健康づくり・リハビリのためのスポーツ解説書である。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発／福祉)

84. スポーツの後近代：スポーツ文化はどこへ行くのか、稲垣正浩、山省堂、1995

コメント：21世紀のレジャーとしてのスポーツのあり方について考える際に貴重な1冊である。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発)

85. スポーツ・ルール学への序章、中村敏雄、大修館書店、1995

コメント：スポーツのルールの成立を理解し、ニュースポーツ種目開発の参考とする際に非常に良い。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発)

86. スポーツ・レジャー社会学：オータナティブの現在、デービット・ジュリー、ジョン・ホーン（清野正義・山下高行・橋本純一編）、道和書院、1995

コメント：生活世界におけるスポーツ・レジャーの位置や意義を多面的に分析し、理論構築を図っている。最新のスポーツ・レジャー社会学の見方・考え方を示した良書である。

(推薦された分野：活動・領域研究)

87. 造園の事典、田端貞寿・樋渡達也編、朝倉書店、1995

コメント：造園技術の基本的事項が編集されている。造園技術の基礎から応用、事例までが理解しやすい内容である。事典という図書名ではあるが、基本書として扱いたい図書である。

(推薦された分野：環境計画論)

88. 地球時代のスポーツと人間、早川武彦、創文企画、1995

コメント：スポーツ社会学から近代スポーツをとらえている。レジャー・レクリエーション活動やプログラム開発に必読と考えられる。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発)

89. 日本的スポーツ環境批判、中村敏雄、大修館書店、1995

コメント：現代スポーツに表れている多様性が、近代スポーツの競争中心主義からの脱皮思考の表れであると

して、近代スポーツへの弔鐘を鳴らす快著である。

(推薦された分野：環境計画論)

90. 健康・スポーツの社会学、山口泰雄編著、健帛社、1996

コメント：健康とスポーツの社会的意義や国内・海外の制度や現状を解説している。

(推薦された分野：活動・領域研究／サービス・運営管理)

91. 市民ランドスケープの創造、市民ランドスケープ研究会編、公害対策技術同友会、1996

コメント：千葉大学造園学科田端貞寿教授の退官を記念して、ゼミのOB24人がそれぞれの研究テーマの成果について分担執筆したものである。幅広い最新の造園学研究の現状を把握するのに好適な書である。

(推薦された分野：環境計画論)

92. 障害者・高齢者のレクリエーション活動、C. A. ピーターソン、学苑社、1996

コメント：セラピューティック・レクリエーション・スペシャリスト (CTRS) のバイブルと呼ばれる "Therapeutic Recreation Program Design" (1984) の翻訳版である。

(推薦された分野：活動・領域研究／プログラム開発／福祉)

93. 生涯スポーツとイベントの社会学、山口泰雄、創文企画、1996

コメント：生涯スポーツのモデル自治体やスポーツによるまちおこしに成功している地域をフィールドワークし、解説している。

(推薦された分野：活動・領域研究／サービス・運営管理)

94. 天使論序説、稲垣良典、講談社、1996

コメント：心の豊かさの時代の学習社会を考える上で参考になる基本書である。

(推薦された分野：原論／政策研究／産業)

95. フロー体験 喜びの現象学、ミハイ・チクセントミハイ、世界思想社、1996

コメント：喜び・楽しさというスポーツ・レクリエーションの基本テーマをフロー理論により見事に解説している。

(推薦された分野：活動・領域研究／サービス・運営管理)

96. ライフスタイルと社会構造、高里茂・桜井洋・北澤裕編、日本評論社、1996

コメント：「ライフスタイル」という概念を理解するために参考となる良書である。

(推薦された分野：活動・領域研究)

97. ランドスケープ体系 全7巻、(社)日本造園学会編、技報堂出版、1996～

コメント：(社)日本造園学会の70周年記念事業として出版された。近年における造園学分野の研究成果が網羅され、現在の研究の先端がレビューされている。1996年11月に第1巻「ランドスケープの展開」が発行され、逐次発刊されていく予定である。

(推薦された分野：環境計画論／政策研究)

98. レクリエーション指導法：その理論と活動、鈴木秀雄、誠信書房、1996

コメント：レクリエーションの本質論・現実論を段階的に述べ、レクリエーションに内在する価値や効果を具

体化していくにはどうしたらよいかという視点から論じ、最後に応用論でもあるセラピューティックレクリエーションの全体像の理解について述べている。

(推薦された分野：活動・領域研究／福祉)

99. 暮らしの哲学としての生活文化、小塩節・松田義幸ほか、PHP、1997

コメント：三木清・ピーパー・ホイジンガを中心に論じたレジャー論である。

(推薦された分野：原論／政策研究／産業)

(資料2)

アンケートで推薦されたレビュー文献リスト一覧

1. レジャー関連文献目録、瀬沼克彰、日本エコノミストセンター、1972
2. 造園雑誌論文・抄録・資料・研究発表総目録。(株)日本造園学会編集委員会編、造園雑誌40(4)、1977
3. 余暇・Leisure・Recreation研究論文・図書文献目録：国内・外国。日本体育大学レクリエーション研究室編、日本体育大学レクリエーション研究室、1978
4. 体育・スポーツ書解題、木下秀明、不昧堂出版、850pp、1981
5. 景観特集、熊谷洋一・油井正昭・糸賀黎・安部大就・柳瀬徹夫、造園雑誌50(2)、1986
6. 観光関係雑誌論文目録、日本観光協会編、日本観光協会、1989
7. 余暇・娯楽研究基礎文献集 解説、石川弘義監修、大空社、1990
8. レジャー・レクリエーション基礎文献解題集、日本レクリエーション協会・レジャー・レクリエーション研究所編、日本レクリエーション協会・レジャー・レクリエーション研究所、1991
9. 観光研究文献目録、日本観光研究学会学術委員会編、日本観光研究学会、1995
10. 「余暇時代の都市づくりを考える」に関する文献リスト、都市計画学会情報委員会編、都市計画183、1993
11. 日本造園学会誌総目録 1977～1994。(株)日本造園学会情報化委員会編、日本造園学会、1995
12. 社会学文献目録 30.余暇・スポーツ、日本社会学会編、社会学評論47(2)、1996
13. 遊び研究文献目録、山田敏、風間書房、1996
14. まちづくりワークショップ読本リスト、ふるさわのりこ、地域開発1996年12月号、1996